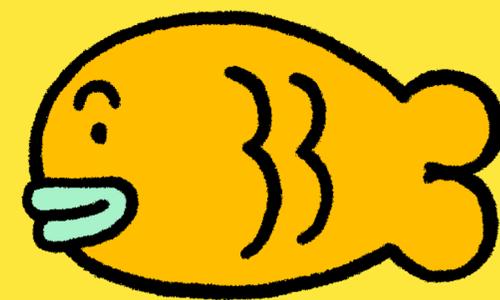


合言葉は



しりたいたね

これからのの

デジタル倫理

考えよう！宣言

## 前文

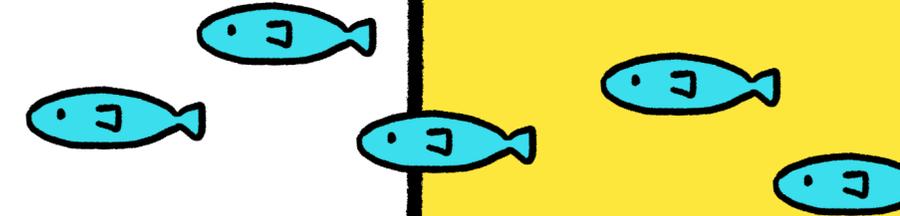
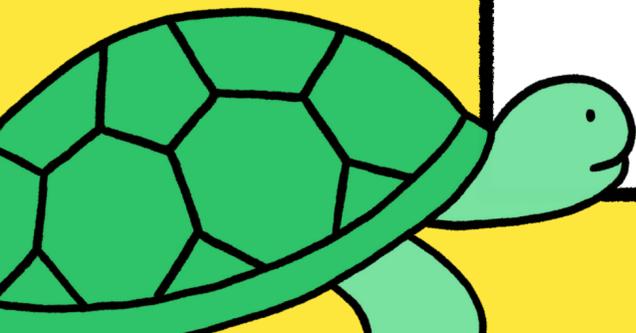
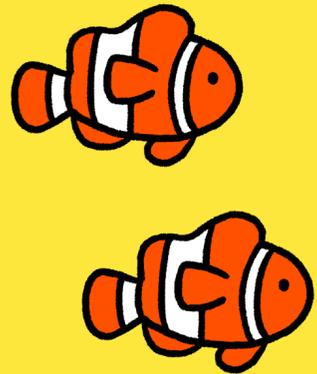
現代のデジタル空間は、社会・経済・文化・政治のあらゆる領域に深くかかわり、人間の営みを支える不可欠な基盤となっています。

一方で、現代のデジタル空間は、人々の注目や関心、時間が経済的資源として収益化される「**アテンション・エコノミー**」の仕組みに強く影響されています。これによって、偽・誤情報や誹謗中傷、過度に刺激の強い情報がわたしたちの周りにあふれるようになっていきます。

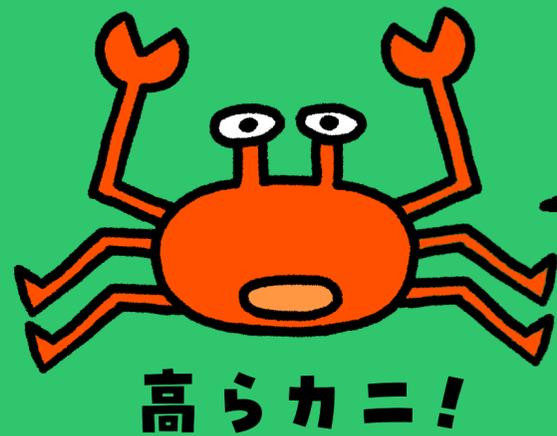
また、**AIの発展**により、「もっともらしく見える」文字情報や動画を容易に生成できるようになり、利用者は何が真実であるかの見きわめが難しくなっています。

わたしたちはこうした現実を直視し、デジタル空間を、すべての人々の尊厳が守られ、相互理解と創造的対話が育まれる場へと変えていかなければなりません。世代・ジェンダー・テクノロジーギャップ・経済状況・身体的特性・文化・宗教・居住地・国籍など、多様な背景を持つ個人や組織が協力し、**健全でいきいきとしたデジタル空間**の実現に向けてともに歩む必要があります。

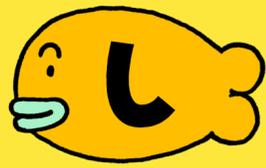
このような考えのもと、わたしたちは以下の5つの柱を行動指針（**しりた いね**）として掲げます。



# 5つの行動指針



わたしたちは、  
以下の行動指針をふまえ、  
すべての人々の尊厳が守られ、  
**健全でいきいきとしたデジタル空間**  
の実現に向けて考え、行動することをここに宣言します。



## ① し 組みを デジタル空間の しっかり理解する

① わたしたち利用者の関心や注目（アテンション）には経済的価値があり、これらを集めることで収益化する「アテンション・エコノミー」の仕組みを理解します。

② アテンション・エコノミーの仕組みのもとでは、刺激的で感情を強く揺さぶる情報が多く出まわりやすいことを理解したうえ、それらと適切な距離を保つことを心がけます。

- 炎上してる話
- 人に言えない話
- 感涙する話
- おもしろい話
- イラつく話
- ギョッとする話

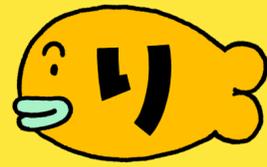
③ 利用履歴や個人データ等に基づいて、わたしたちの興味・関心に沿ったコンテンツが選別・表示されるアルゴリズムの存在を理解し、それが過度な利用や認識の偏りを助長するリスクを理解します。

④ 一度公開された情報は、半永久的にインターネット上に残り続ける「デジタルタトゥー」となりうることを意識します。情報を発信する際は、責任と慎重さを持ってその真偽を確認し、特に他者の人権（プライバシーや名誉など）を侵害していないかについては最大限の注意を払います。

⑤ AIの特徴やリスクを常に理解するようにつとめ、情報テクノロジーの変化に応じて知識と判断力を更新するよう心がけます。



⑥ 上記の仕組みやリスクを認識したうえで、デジタル空間を主体的かつ創造的に活用していくよう心がけます。



## ② り スペクトにあふれた交流を行う

① 他者の人権と多様な価値観を尊重し、誠実で思いやりのある言葉と態度で発信・対話を行うよう心がけます。

② 誹謗中傷や差別的な言動を許容せず、誰もが安心して参加できる健全なコミュニケーション環境を育みます。

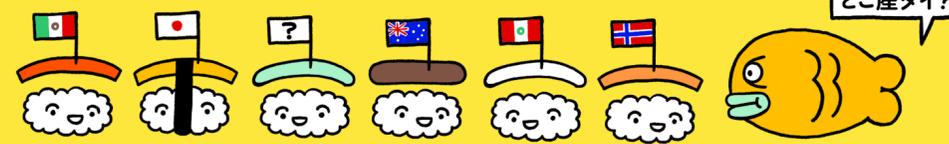
③ 情報の受け手に与える心理的影響を十分に想像し、相手の立場に配慮した節度ある表現で発信するよう心がけます。



## ③ た 様々な情報に出会えるチャンスを増やす

① 信頼できる情報源にバランスよく触れることで多角的な視点を持ち、真偽をみきわめる力をもてるよう心がけます。

② 特定のアルゴリズムが提供する情報を一方的に受けつづけるだけでなく、さまざまな情報に自ら主体的に触れることを心がけます。



③ 異なる意見や文化に対して開かれた姿勢を持ち、活発な議論や対話が促進されるようなデジタル空間をともに育みます。



## ④ い ちど立ち止まり情報の出どころと根拠を確かめてから広げる

① 情報の正確性や信頼性を判断するため、情報の発信元と根拠を確認するよう心がけます。

② 偽・誤情報を発信・拡散せず、責任ある情報発信者としての自覚をもって行動するよう心がけます。

③ シェアやリポストといった情報の拡散も、自らの発信と同様の責任を伴うことを意識します。



フェイクニュース

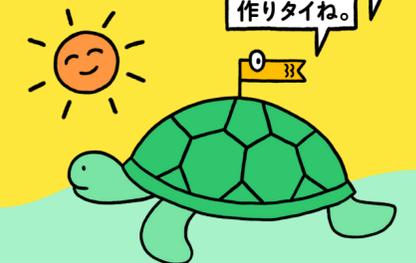


## ⑤ ネットジェネレーションとともに未来のデジタル空間を築く

① 子どもたちがデジタル空間の利用者としての責任を理解し、適切な判断ができるよう、ともに学び、リテラシーの向上を目指します。

② 子どもたちとともにAIを含む情報テクノロジーの適切な使い方を模索し、世代を超えた対話と学びの場を育みます。

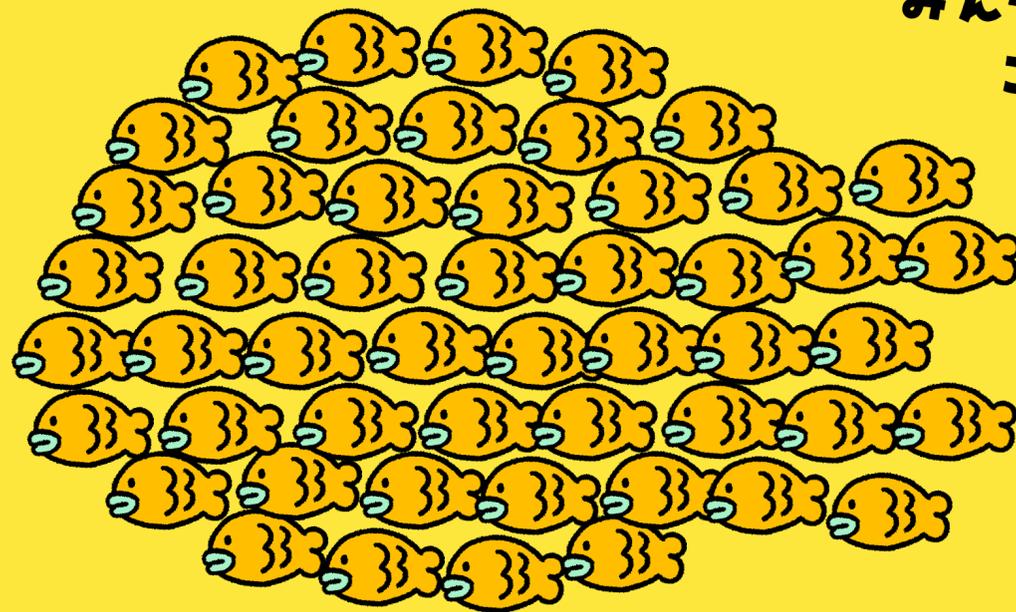
③ 子どもたちがデジタル空間において情報を受け身で消費するのではなく、主体的に考え、創造的に関わることのできる環境を育みます。



次世代

見守りタイ。 & 学びタイ。

そんな未来作りタイね。



みんなー！  
このしっぽに  
と～まれ！